



みやざき人づくり・地域づくり中山間地エリア会議！

11月12日（火）、諸塚村立諸塚中学校において、中山間地エリア会議を開催しました。会議では、諸塚村の小中学生と交流を深めるとともに、県内中山間地の各自治体における特色ある取組等について情報を共有し、今後の人づくり・地域づくりについて意見交換をしました。諸塚村をはじめ、椎葉村、美郷町、高千穂町、日之影町及び五ヶ瀬町の関係職員や教職員、宮崎大学教育学部の関係者や大学生、知事部局の方や市町キャリア教育支援センターの方等にも参加いただき、約50名で交流や意見交換を行いました。

諸塚村ふるさと学習フェスティバル

諸塚小学校、荒谷小学校、七ツ山小学校の3～6年生が、「ふるさと再認識」をテーマに、地域学習で学んだことを発表しました。諸塚村の森の特徴である「モザイク林相」について、森のめぐみや絶景ポイントを踏まえて話したり、林業について、仕事を林業雑誌にまとめて発信するまでの取組を説明したりしていました。参加者の皆様も、諸塚の魅力をたくさん見付けていたようでした。



諸塚村の中学生との交流

諸塚中学校の2年生が、諸塚村のPR活動において、店頭販売の体験や人とのかかわりの中から学んだ、諸塚を愛し、地域の力を生かすことの重要性をプレゼンテーションで発表しました。

発表の後には、中学生と参加者がグループを作り、PR活動でできたことや気付いたこと、苦労したこと等について座談会を行いました。中学生は、仕事を行うことの大変さを知るとともに、働く人の仕事や地域への思いについて、体験を通して学んだことを話していました。



インタビューダイアログ

阿部健一教授（総合地球環境学研究所）、遠藤宏美准教授（宮崎大学）、田阪真之介代表（NPO法人グローバルアカデミー）、田邊薫事務局長（諸塚村観光協会）、水永正憲統括コーディネーター（県キャリア教育支援センター）の5名が、「地域の魅力」や「ふるさとの未来」について話をしました。

インタビューを通して、中山間地域は、持続可能な社会をめざす上で最先端と言えることや、未来を豊かにする大きな可能性をもっていることなどが話されました。



グループトーク

グループを作り、「ふるさとの強み・良さ」「ふるさとの未来に必要なこと」について話をしました。地域の伝統芸能や名所、地域どれかの素材や自然のもつ魅力、世代を超えたコミュニティーをつくること等が、強みやよさであることが、再確認されていました。



新学習指導要領における「特別活動」

キャリア教育は、新学習指導要領において特別活動を要として各教科等の特質に応じて実施することになっており、学級活動・ホームルーム活動の内容には、(3)として「一人一人のキャリア形成と自己実現」が設定されています。

学級活動(3)は、小学校においては、新しく設定されたものであり、中学校、高等学校においては、「学業と進路」から変更されました。

今回の改訂で、学級活動(3)について、内容は、小中高でそれぞれ以下のように整理されます。また、この整理をもとに学級活動・ホームルーム活動について、年間指導計画の見直すポイントをお知らせします。

【学級活動・ホームルーム活動の内容】

小学校	中学校	高等学校
(1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活づくりへの参画 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 基本的な生活習慣の形成 イ よりよい人間関係の形成 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計	(1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画 ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 国際理解と国際交流の推進 エ 青年期の悩みや課題とその解決 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解 イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用 ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

【年間指導計画を見直すポイント】

下記の「(例)第6学年 学級活動 年間指導計画」のように「(1)ア」「(2)エ」など内容が分かるように記入し、年間指導計画で学級活動・ホームルーム活動の内容を確認できるようにしておくことが大切です。

(例)第6学年 学級活動 年間指導計画

月	題材名	内容		
		(1)	(2)	(3)
4	○ 6年生になって ○ 学級の目標を決めよう ○ 係を決めよう ○ 気持ちのよいあいさつ	アイ	ア	ア
5	○ 仲間について考えよう ○ 思い出に残る修学旅行にしよう ○ 学級の問題	イア	イ	
6	○ 口腔の衛生と正しい歯みがき ○ 1年生とふれあい集会をしよう ○ 学校図書館の魅力 ○ 委員会活動を活発にしよう	ウ	ウ	ウイ
7	○ 清掃活動を見直そう ○ 夏休みのくらし方を考えよう ○ 学級の問題	ア	ア	イ
8 ・ 9	○ 係の仕事を知らせよう ○ 運動会のスローガンをつくろう ○ みんなの命を大切にしよう	イウ	ウ	
10	○ よりよい学び方を見つけよう ○ 2学期のめあて ○ 2学期の係を決めよう ○ 学級の問題	イア		ウア
11	○ 栄養満点！私のお弁当 ○ 学級レクリエーションをしよう ○ 時間を決めて(情報)	ア	エ ア	
12	○ 学級の問題 ○ 喜ぶ言葉、悲しむ言葉 ○ 冬休みを有意義に	ア	イ	ウ
1	○ 望ましい食生活と食事のマナー ○ 卒業に向けて話し合おう ○ 「性」について考えてみよう	ア	エ ウ	
2	○ 茶話会の計画を立てよう ○ アイデアを生かした卒業文集をつくらう ○ 学級の問題	ア ア ア		
3	○ 「お別れ会」をしよう ○ 中学校生活に向けて	ア		ア
総時数(全35時間)		17	10	8

① 学校や児童の実態及びそれぞれの内容に応じて充てる時数を適切に配分します。

② 学年が上がる程児童・生徒の自主性を伸ばすため(1)に重点を置くことが大切です。

③ 学級活動は、小学1年生が、34時間、2～6年生、中学生、高校生が、年間35時間以上です。

①～③のことも踏まえ、それぞれの内容について計画的に成果を上げることができるよう年間指導計画の見直しをお願いします。